



【第2弾】 若年性認知症に関する 地域円卓会議

若年性認知症の当事者のくらしを守るために必要な
「拠点」と「連携」を考える

実施報告書

日 時： 2024 年 10 月 12 日（土）18:30-21:30（受付開始 18:00-）
場 所： 浦添市市民協働・男女共同参画ハーモニーセンター ホール
（沖縄県浦添市安波茶 2-3-5）
主 催： 沖縄認知症見守りコンソーシアム
（公益財団法人みらいファンド沖縄、公益社団法人沖縄県地域振興協会）
共 催： 合同会社 GreenStarOKINAWA
協 力： NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく

ACTIVITY REPORT

【報告】【第2弾】若年性認知症に関する地域円卓会議



■日時：2024年10月12日（土）18:30-21:30

■場所：浦添市市民協働・男女共同参画
ハーモニーセンター ホール

■着席者数：7名（論点提供者、司会、記録者含む）

■参加者数：20名（行政・医療機関等）

■主催：沖縄認知症見守りコンソーシアム（公益財団
法人みらいファンド沖縄、公益社団法人沖縄
県地域振興協会）

■共催：合同会社 GreenStarOKINAWA

■協力：NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供

多良間 真高 氏（合同会社 GreenStarOKINAWA 事務長）

若年性認知症の当事者のくらしを守るために必要な「拠点」と「連携」を考える

2023年3月に行われた若年性認知症を扱った地域円卓会議は「くらし・就労・子育て、若年性認知症にまつわる課題をみんなで共有する」をテーマに掲げ、沖縄県内での若年性認知症の現況を確認しながら、高齢者の認知症との共通点や違いを認識し、その周辺にある課題を議論しました。特に就労等の社会との接点、子育て等当事者の家族に対するサポート等多くの制度を活用していくことや専門職同士の「連携」の重要性が論じられました。

今回の円卓会議では、休眠預金活用事業で若年性認知症に関する拠点事業を行う Green Star OKINAWA 社の活動報告を通して、認知症当事者と地域社会や企業の参画等の可能性を探る会議を目指します。

センターメンバー



多良間 真高
合同会社
GreenStarOKINAWA
事務長



安次富 麻紀
沖縄県
若年性認知症支援
コーディネーター



新里 勝則
沖縄県
希望大使



石川 直希
沖縄県
地域包括ケア推進課



坪内 裕紀
愛知県岩倉市
市民協働部市民窓口課

〈第2弾〉

149回目

若年性認知症に関する 地域円卓会議

地域の困りごとと社会課題として共有
共感する場

若年性認知症の 当事者のくらしを 守るために必要な 「拠点」と「連携」を考える

主催 沖縄認知症見守りコンソーシアム
(公益財団法人みらいファンド沖縄, 公益社団法人沖縄県地域振興協会)

協力 NPO法人まちなか研究所わくわく

2024年10月12日(土)

18:30~21:30

④ 浦添市市民協働・男女共同参画
ハーモニセンターホール

(秘書) NPO法人まちなか研究所
◎ 宮道幸一

(論点提供)

多良間真高
合同会社Green Star OKINAWA

安次富麻紀
沖縄県若年性認知症
支援コーディネーター

新里勝則
沖縄県希望大使

(司会)

平良斗星
(公財)みらいファンド沖縄

坪内裕紀
岩倉市市民協働部
市民窓口課

石川直希
沖縄県地域包括ケア推進課

**論
まとめ**

ステークホルダー・プレイヤーの整理できる
対象者の調査は必要
場をつくる→発信する(メディアの役割)
個別ケア(オーダーメイド)→せの中の合意が必要
連携しながら、新里が望まない啓発は必要

論点提供

多良間 真高 さん
合同会社Green Star OKINAWA 事務長

2024.4 休職・預金と活用⇒居場所

**若年性認知症(65才未満で診断)
の居場所づくり**

当事者も
スタッフも
楽しい工房

若年性
認知症
の方

✕

居場所

参加
してもいい

低い工賃では...
就労意欲がな...
活動意欲低下
人それぞれ...

変化

居場所
利用者
2名

**内職
受注数
2件**

**当事者
の集い
「同土会」**

高齢の参加希望者も

制度からの脱却

介護保険 障害制度

制限 自由な活動 就労

制度の入り口をうまく取る取組が必要

企業のキフ 有償ボウ ⇒ 活用

「楽しみながら」
もコンセプトに
当事者へよりよい
多様な状況へ対応

負のスパイラル

失敗
つづ

→

てじこもる

うまく
いかない

→

でも仕事
したい

石川直希さん

沖縄県地域包括ケア推進課

R5年度末 65歳以上 350,278人

認知症以上 43,048人 (約12.3%)

若年性認知症 約1,000人 (推計)

R6.1.1施行 ~ 認知症基本法

R1.6 認知症施策推進大綱

沖縄県認知症施策

↳ 若年性認知症支援コーディネーター

沖縄県認知症希望大使

R5.9 3名へ委嘱

新里勝則さん

若年性
認知症
の方が
必要と
するものが
ない

理解が
するでない

メニュー
居場所は
その先では

安次富麻紀さん

③

若年性認知症支援コーディネーター 県内 2名

① 相談窓口

② 支援ネットワーク

③ 地域や関係機関
に対する若年性認知症
に係る正しい知識の普及

④ 意見交換会等
ニーズハック

⑤ 就労や社会参加活動
の支援

介護保険
障害サービス
両制度
のハズマ
ひとりひとりのニーズ
を事業所へ伝える

企業等で就労

障害福祉サービス
福祉的就労(A・B型)

介護保険サービス
約1,000人

本人の症状に合わせた
継続的支援

連携

- ・各相談窓口が対応できる人材育成
- ・制度ではない支えあい
- ・仲間とつながるよさこび生きる力

新里勝則さん

沖縄県希望大使

はつみさん

65歳

H19.3 ~ H25.2

54歳 仕事忙しく体調くずしうつ病と診断

H26.12 若年性認知症

前頭側頭型と診断

4ヶ月入院 ← 自殺企図あった。医療ホム入院

↳ 条件: デイサービスへ行くと

行きたくなかった
居場所みつけれず
公園にいることも

洗車、食器あらい
とてもきつかった。
デイに意見言えず
行く場所ない

B型就労へ

うれしかった。人間らしくあがてくれる。
お金もらえる。

制度の転換が時期だった

デイサービス + 有償ボランティア

普通に
接してくれる
とても
うれしかった

家族会 → 制度も教えてもらった

知らない人が多い

うるみんで交流会やっている(本人と家族)

尊厳

まず心
が大事

坪内裕紀さん

岩倉市 市民協働部 市民窓口課

円卓会館の研修で愛知県から来沖

現状と知った。学び

岩倉市でも同じことあるはず

施策があっても、知らない。利用されない

↳ 啓発の重要性。正しい理解

オーダーメイドの支援を行政として

どう対応していくのか

↳ 行政苦手としている

とくいている団体と連携して

眼) 自分ごととして、ちゃんと理解する

サブセッション

認知症当事者の
方の参加

ひとりひとりの理解

ギリのお母さん認知症
伝えにくい

若い人の認知症

3年前、去年診断
A型へ

性格がかわった
気がみじかく

マルチタスクできなく
なってきた

行政の人の理解なく
いらい

社会への認知の重要さ

支援者も学んで
いかないといいない

基本的人権を守ること

労働対価えれる
しくみも

拠点→今あるサービス
も拠点になる

コロナで認知症進行

家族の声もただで

支え、大事に

居場所→つくられると
行きたくなるかも

今あるサービス
(制度)
へのフィードバック

特有の理解
のフォロー

関わり方

ハイコスト
手回りがよ
いのは

育成
時間がかかる

わかったことないの
わかりません

医療・福祉
すべてカバー

新しいしくみ
つくる

時間かかる

両方やる
必要がある

男女差

男性多い

いきむりがち

仕事はよりフック

1~2h

家族が
公表しない

介護保険
申請しない
ところも

ネガティブ
イメージ

企業
への啓発も

専門職
への啓発

正確な
人数
あり

県1度
調査した
509人

調査
必要

拠点を
どこに
おくかもムズかしい

ふとも視点

作るも
生きがいのあしけ
てあてつけない

つながれる場も自然な形に

セッション2

制度

定員
収益

工3
内で

なかなか
ふみこめ
ない

解釈

個別の
支援

5

基本的人権

認知症基本法

誰もがなろう
理解を社会で

場をつくる

ルール

基本方針

プログラム
は主権性
まかせて

プロセス
サポート
いろいろ

■今後のアプローチの方向性（提案）

- 沖縄県内の若年性認知症の正確な人数などを把握するため、実態調査が必要。同時にサポートを行うような複合的な事業をすすめる。
- 若年性認知症の調査やサポートをする中で得た情報を正しく伝え、啓発につなげるためにはメディアの力が必要。調査とサポート、その啓発と、うまく循環をつくり成功体験を積み上げていくことが大切。
- 若年性認知症に必要なオーダーメイド支援＝個別ケア支援を実現するには、社会の合意が必要。基本的人権をおさえたアプローチができるよう、支援者だけでなく、一般の方々も含め、社会全体で共通理解を作っていかなければならない。

■参加者によるサブセッション

若年性認知症の当事者のくらしを守るために必要な 「拠点」と「連携」を考える

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

- ・ 当事者のリアルな声がきけて良かった。
- ・ コロナで会えない時期→分からなくなっている。自分が認知症だと自覚していないけど、その場にいられることに幸せを感じる人もいる。
- ・ 居場所をわざわざ作られると行きたくなくなるのでは？
→ゲリラ的に集える場所の方がいい
- ・ 本当に当事者が望んでいることなのか、
- ・ 「生きがい」の押しつけは×
- ・ つながれる場を創るだけで OK では
- ・ ex、家族会で勝手に予定立てる。
- ・ 子どもの純粋な視点。

②

発表②

- ・ 社会への高齢者だけじゃない認知
- ・ 若年性認知症とは
- ・ 支援者、支援団体、サービス実施団体
- ・ 社会的役割の確立
その人らしく…お金や労働の対価が要る
(基本的人権を踏まえる)

【連携】

当事者、その家族、支援者、団体、専門職など

【拠点】

今ある資源と当事者ニーズを結びつける

③

- ・ 制度の狭間にいる人たちの存在
- ・ 「働く」ことの意味を考えさせられた(工賃をもらえるかどうかだけでなく)
- ・ 円卓会ぎをまちづくり分野でやりたい
- ・ 当事者の声
- ・ 行政の仕事は後追いになることも
- ・ 知られていないこと
- ・ 制度の狭間がクローズアップされて実際にかわるまでのもどかしさ、実態としては埋めることは難しい
- ・ 行政だけではできないことも

④

- ・ 自分事として理解するのが難しい
- ・ 自分だったら絶望しそう
- ・ 人間の尊厳をどう保つか？
- ・ 当事者との接し方を考える必要がある
- ・ 最初のアクセスも難しそう
- ・ 父が当事者
- ・ 老老介護の不安
- ・ 一軒家を買ったら出費どうする？
貧困問題、子どもの教育にも繋がる
問題が波及していく
→沖縄は収入低いし
- ・ 「初手で間違えると薬による悪化が問題」
- ・ 明日診断される可能性がある
【企業】大企業は配置替えができる
→沖縄は中小企業が多い。
配置換えできないよね。
どうしたらいいんだろう？

⑤

- ・ 親が認知症（義母 68 才）
- ・ →言いにくい
周りの人に言ってみたけどなかなか難しい
→1 歩ふみだす勇氣
- ・ もっと手前のことでできることかなにかな
いかっていう話がもっと議論したいな、と。
- ・ 老介護
若年性 仕事しているとなかなか見づかり
にくい
高齢者と若い人、認知症「違う」
ネットワークとか支えるしくみつくれたら
いいな
- ・ 3 年前 認知症（アルツハイマー）一歩手前
→去年 認知症
- ・ 仕事いかになく→会社休んで→A 型就業
性格かわった、暴言とか、気がみじかく、ア
トピーとか
ガスコンロを使えなく
カギさしっぱ
マルチタスクが難しい
料理～しながら～するとか難しい
趣味→楽器
○行政の理解→
危ないなって思ったら相談
→相談できるところがあるのっていいよね

⑥

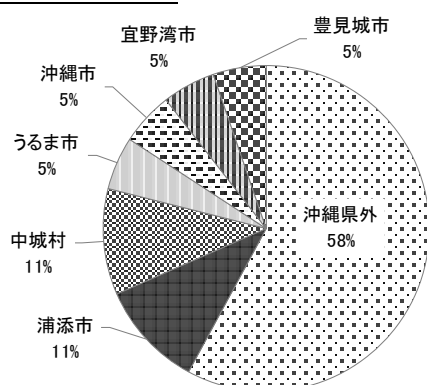
- ・ 拠点がつくれない
- ・ 割合少ない
- ・ (介)：高齢者向け
→若年性の受け入れできない

【第2弾】若年性認知症に関する域円卓会議 参加者アンケート集計

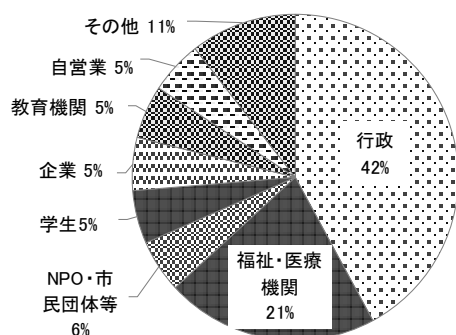
◆概要

- ・日時：2024年10月12日（土）18:30 - 21:30
- ・場所：浦添市市民協働・男女共同参画ハーモニーセンター ホール
- ・着席者：7名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：20名（行政、福祉・医療機関など）
（アンケート回収19名、回収率95%）

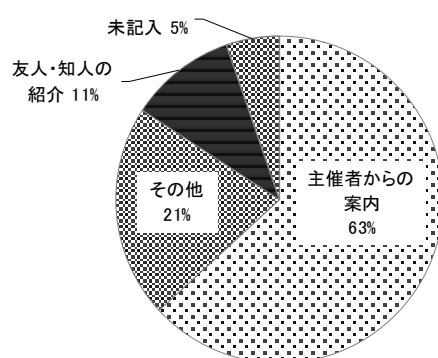
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.7（5点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足	未記入
12名	6名	0名	0名	0名	1名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・ 貴重な意見をたくさん聞きました。
- ・ 困りごとを共有できて、問題の難しさを共有できた。
- ・ 若年性認知症について、言葉は聞いたことがありましたが、当事者の方にお会いしたりお話をきく機会がなかったので、非常に良い機会になりました。
- ・ 学びました。また自分の家族のこととしても、気づきをいただきました。
- ・ 若年性認知症の理解を深めるとともに何が課題なのかが明確化できた。
- ・ 若年性認知症の理解が進んだこと。それもいろいろなステークホルダーの人の意見から多角的に知ることができた。みんなで議論をしたという感覚を持った。
- ・ 色々な話し合いができてよかった。
- ・ 実際を見ることで社会課題へと昇華させることの意味が見えた気がした。制度の間であえぐ当事者とそれを支えようとする人々の存在を目の当たりにすると、何らかの手当の必要性を感じさせられた。その場の熱量と共に伝えられるものであって体感、体験できた価値は大きい。
- ・ このような円卓会議でテーマに沿った話を県職員や当事者も交えて話すことができるのは本当に貴重な機会であると感じた。

- ・ 初めて円卓会議を見学させていただきましたが、セッション1でベースとなる知識をきちんと入れてから様々なバックグラウンドのある方と意見交換することができ、またそれを拾ってもらった上でセッションを行う流れがとても有用だと感じました。また司会の役割の重要性も強く感じました。
- ・ 円卓会議の実際の流れを見ることができた。福祉分野に関わったことがなかったので、今回認知症の分野でさまざまな角度からのお話を聞くことができ、たくさんの気づきをえることができました。ありがとうございました。
- ・ 当事者の声や現場対応している方の生の声が良かった。

(4. 概ね満足)

- ・ センターメンバーとして参加することができるといいう貴重な体験をさせていただけたため。とても楽しかったです。もっとしっかりと感想が言えればもっと良かったと思います。
- ・ 「認知症基本法」をあらゆる世代職種、官民、教育、学べたらと思う。
- ・ 当事者も含め色々な立場の人の意見が聞けてとても勉強になりました。
- ・ 色々な意見と出逢えてよかった！もっとお話したかったです！
- ・ 普段知識がない分野について、当事者や当事者を支える人たちの想いや行動を知ることができたため。

(未記入)

- ・ 実際の円卓会議を体験して、平良様のとりまわし、ファシグラによる見える化、しくみとして進めることが体験できました。

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 難しい中でもアイデアを探していく手法は

大事だと思いました。

「自分ごととして考える」こと、「正しい理解」をすることの重要性知識や技術も大切だがまずは「心」

リサーチとアクションの重要性

- ・ サブセッションで当事者家族がおられ、そのかたは兆候に気づいてから医療につながる間だけでなく、医療で診察→検査→診断にも長期またされ、時間を要したと。いろんな(困り事の)支援で、当事者の固有性について語られるけれども、この問題には時間という当事者の固有性、それ自体も日々変化させて流動的にする→支援のこまやかさ、むずかしさがより上がる問題でもあるんだと感じました。エリア外もふくめて、多様な対象に多様な制度を複合する特区のような対応ができないか。離島や条件不利地域の当事者はさらにたいへんでは、と。

時間一壁をこえるのに時間かかるけど当事者の時間もない。

- ・ リサーチアクションをすること、男性のコミュニティを作ること、役所の方々に若年性認知症のけいもうと対応を伝えること。ご提案でグラレコでまとめられている内容と話をされている動画をとって、配信するとよいと思います。
- ・ 行政を動かすために、オーダーメイドに対してどう市民権を得ていくか。
- ・ 当事者の方の話を聞いたことがとても印象に残った。行政の立場からすきまをぬうような対策はどうしていけばよいか考える良い機会となった。
- ・ 若年性認知症当事者の体験。何度も自殺しようとしたとか、デイサービスのできごとなど、おどろく内容ばかりでした。
- ・ 他職種連携行おうとする中でも統一した認識、知識がないと難しいのと「基本的人権」お互いをリスペクトする、お互いを近いしろうとする真心、素直さがベースに必要。

- ・ 認知症基本法を周知させていくことが色々なことを進めていく上で大切だと思いました。また新里さんの認知症であっても「普通に接してもらのがうれしい」というのが印象に残りました。とても大事なことだと思います。
- ・ 今、ある資源を利活用する。自分事として理解したうえで、受け入れる場を設ける。若年性認知症について理解を深めたうえで、介入し過ぎないようにする。
- ・ センターメンバーの話しから事実を述べていただけたことで、情報が入りやすくなり、行政がとくいでない不平等なオーダーメイドの支援が必要とされることが印象的でした。
- ・ 最後のふりかえりポスター（グラレコ？）がすばらしかったです！

(写真) 会場の様子



- ・当事者のリアルな声が出てきた。
- ・コロナで会えない時期 → 分からなくなっている。
自分が認知したと自覚しているけれど、
その場をいかに乗り越えるかを感じている人いる。
- ・居場所をめぐって作ることで
行ったことなくなるのでは？
→ ケリ済みに集まる場所のちがいはいい
- ・本当に当事者が求めていることなのか。
「生きがい」の押しつけは ×
- ・つながれる場を創るだけでOKでは
ex. 家族会で勝手に予定立てる。
- ・子どもの純粋な視点。

- 発表② 高齢者だけじゃない...
- ・社会への認知
 - ・若年性認知症という。
 - ・支援者、支援団体
サービス実施団体
 - ・社会的役割の確立
その人らしく... お金や労働の対価が
(基本的な人権を踏まえる)
- ↓
- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| 連携 | 視点 |
| 当事者、その家族
支援者、団体、
専門職など | 今ある資源と
当事者ニーズを
結びつける。 |

- ・制度の狭間にいる人たちの存在
「僅か」ことの意味を考えさせられた
(工賃をもらえるかどうかだけでなく)

- ・円卓会議をまちづくり分野でやりたい
- ・当事者の声
- ・行政の仕事は後述いになることも
- ・知られていないこと
- ・制度の狭間がクローズアップされて
実際にかかっているものかしら、
実態としては理めることは難しい
- ・行政だけではできないことも

